

知って備える 防災メモ

第67回



あなたの部屋は『安全』ですか

6月18日(月)、大阪府北部を震源とした最大震度6弱の地震が発生しました。世界の中でも地震が多い国、日本。いつ、どこで発生するか分からない地震に対しては、日頃からの心構えと備えを万全にしておくことが大切です。その心構えと備えが、あなたの生死を左右する場合があります。

地震による被害を最小限にするためにも、日頃から地震に対して、家具などの転倒防止対策や安全経路の確保などを行うことが重要です。

家具などの転倒防止対策

平成7年に発生した『阪神・淡路大震災』で亡くなられた方の原因の約8割は、『窒息・圧死』であり、また、6月の大阪府北部の地震において亡くなられた方も建物や家具などの下敷きになったことが原因とされています。

普段は生活と共にある家具も、地震によって凶器となります。家具や棚などが転倒しないよう固定金具を取り付けている場所から離すなど、配置にも工夫が必要です。

また、転倒だけではなく、たんすや引き出しの中にあるものが飛び出すことやガラスや鏡が飛散し、けがをすることもあるため、引き出しや開き戸に飛び出し防止器具を取り付けたり、ガラスなどに飛散防止フィルムを貼るなどの対策も忘れてはいけません。

屋外に潜む危険性

地震が発生した場合、屋外にも危険は潜んでいます。

大きな地震では、アンテナや割れた窓ガラスなどが落下したり、ブロック塀や電柱、家屋などが倒壊する可能性が高くなることから、まずは頭をしつかりと保護するとともに、建物などから離れることが重要です。

また、普段、よく利用する道路や避難経路として利用する道路などが地震発生後にどのような状態になるかを日頃から考えることも、大切な対策の一つです。日頃から防災意識を高めて、地震に備えましょう。

▼問い合わせ

総務グループ (☎⁸⁵1130)

人が輝き まちがとぎめく

仲間たち

Group

民謡睦美会

『民謡睦美会』は、民謡を通じて会員同士の親睦を図り、各地の民謡を研究することを目的に、昭和38年に発足しました。現在、会員は60代から90代までの男女9人と小・中学生9人の計18人。主に毎週火曜日の13時から15時まで、鉄南ふれあいセンターで活動しています。

「練習はいつも、北海道の民謡『江差追分』から始めています」と話すのは代表の後藤栄華さん。

会員の尺八の演奏と後藤さんの「ソイ」という掛け声に合わせて、全員でうたう江差追分の練習をはじめ、三味線や太鼓も使ってさまざまな民謡の練習をしています。



古くから伝わる日本各地の民謡を学び、後世に伝えていきたい



▲尺八や三味線、太鼓の演奏に合わせて民謡をうたうメンバー

会員の酒井孝平さんは「民謡という趣味を通じてみんなが集まり、一緒に声を合わせてうたうことが楽しいです。お腹に力を入れて、大きな声でうたうので、ストレスの解消にもなり、健康にも良いですよ」と民謡の魅力を語ります。

昭和46年から入会している川口堅作さんは「当時、職場の同僚に、健康に良いと誘われて、長年続けてきて、今では孫も民謡を習っており、一緒に民謡をうたうことができうれしいです」と笑顔で話してくれました。

多くの大会や発表会にも参加している『民謡睦美会』。民謡に興味のある方や活動に興味のある方は酒井さん(☎⁸⁵5245)まで。